

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新居浜市立中萩中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 792-0045

愛媛県新居浜市中萩町13番31号

E-mail nkjhj-ad@esnet.ed.jp

Website http://nakahagi-j.esnet.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 249名 女子 242名 合計 491名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自立・共存・交流 ～地域に学び、自己の生き方を考える～」を活動テーマとして、ESDを学校の教育目標「思いやりの心もち、主体的に生きようとする生徒の育成」を具現化する活動と捉え、ESDの実践を通して課題設定能力・課題追究能力・コミュニケーション能力・自己実現能力の育成を目標とした。

具体的には、防災教育、ふるさと学習、地域文化の継承、資源回収を柱に、①地域防災に係わる活動、②別子銅山産業遺産に係わる教育、③新居浜太鼓祭りに係わる学習、④空き缶回収とアート制作に係わる学習を行った。

① 地域防災に係わる活動

9月10日(日)、近隣の中萩小学校グラウンドで、中萩校区防災訓練が実施された際に、3年生を中心に100名弱の中学生が参加し、公民館や連合自治会の方々と各ブースを担当した。その学習をもとに、12月10日(日)、中学校で全校生徒対象の防災訓練を実施し、校区防災訓練参加者が講師となって、消防団員らと一緒に他の中学生に対して訓練を実施した。

② 別子銅山産業遺産に係わる教育

5月1日（月）遠足で別子銅山に関連のある煙突山（通称）に登った。9月29日（金）、愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部の河野顧問と部員を本校に招き、「別子銅山を学ぼう」という題で事前学習を行った。その後も調べ学習等を重ね、10月24日（火）、「ふるさと学習（現地見学）」を実施した。台風直後であったため登山はできなかったが、東平（とうなる）歴史記念館、マイントピア別子、別子銅山記念館を見学して、新居浜発展の礎を築いた300余年の近代化産業遺産について学んだ。

③ 新居浜太鼓祭りに係わる学習

10月16日（月）、雨天の中、お祭り集会を実施した。公民館を通じて校区の新居浜太鼓台運営委員会と協議を重ね、校区の大人太鼓台のうち4台を校内に招き入れた。通常は小学校で実施されるお祭り集会を中学生にも体験させようと重ねた、2年越しの話合いを通じて、地域とのつながり、郷土に対する愛情、異年齢の人とのコミュニケーションの取り方などを学んだ。荒天のため、運動場から駐車場に場所を変更して実施した。

④ 空き缶回収とアート制作に係わる学習

9月22日（金）、全校生徒による空き缶回収をスタートさせた。生徒会役員を中心に、アートの原画についての話合いを重ね、穴開け作業や色塗り作業の分担計画を立てた。作業工程の途中で、愛媛県立新居浜特別支援学校の生徒が来校し、本校生徒と一緒に作業をした。学校創立70周年ということもあり、今年度のアートテーマは「創」に決定した。地域住民へのメッセージにもなっている。アートは体育館の壁面に1年間飾られ、回収時に資源回収業者に渡して換金している。リサイクルの学習も兼ねている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・愛媛県立新居浜南高等学校ホームページ内「マインからマインドへ」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校の経営方針にユネスコスクールの活動に取り組むことを明記し、総合的な学習の時間と教科・道徳・特別活動を横断的に活用した。

育てようとする資質や能力及び態度を、「課題設定能力」「課題追究能力」「コミュニケーション能力」「自己実現能力」の四つに定め、指導内容の精選を図った。

その結果、グループ学習を多く取り入れることになり、生徒一人一人が自分の課題をより身近に求めることにもつながっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「総合的な学習の時間」主任を中心として、校務分掌に各学年ごとの担当教師を配置した。ユネスコスクールとしての活動の理念を常時掲示し、その成果を経年比較して、継続的に活動できるように生徒・教師の活動意欲を喚起した。また、生徒会担当教員とも連携し、生徒会執行部から各専門委員会への活動におろしていくことで、異年齢縦割り集団による活動も推進した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

公民館、連合自治会、校区小学校、消防署、校区消防団等、地域の各種団体に活動を広く紹介した。活動のたびに生徒による評価を公開した上で、各種団体からの評価をしていただいた。成果としては、中学校の活動に対する協力が容易に得やすくなったことが上げられる。課題としては、活動時期に関する各種団体の希望のすり合わせ、行事精選との兼ね合いが上げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDの活動内容や成果を学校ホームページで紹介した。プリントによる成果物配布に比べて、広範囲に同時に広報することができ、また、新聞等のメディアにも取り上げられるようになった。その結果、中学校の活動に対する地域の期待感が高まり、地域からも様々なアイデアが寄せられるようになってきた。発信内容も写真だけでなく、生徒の課題意識や今後への展望にまで高まってきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

公民館や連合自治会とのネットワークは年々強固になってきている。授業時間以外での活動や、週休日の公民館行事への参加も増加している。また、ふるさと学習を推進する上で、地元企業(住友グループ各社)が共同で設置した「別子銅山記念館」や、市が設置した「広瀬歴史記念館」、テーマパークである「マイントピア別子」(端出場ゾーンと東平ゾーン)等と連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛媛県立新居浜南高等学校のユネスコ部との交流を続けている。本校から多数の卒業生が進学する高校であり、2010年には四国初のユネスコスクールに認定された、近隣の高校である。そのユネスコ部から河野義知顧問と部員を招き、ふるさと学習の事前研修の一環として出前授業を実施している。また、日程が合えば、本校の別子銅山現地研修にも参加してもらい、ガイド役をお願いしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

一般的に小学校に比べて、中学校は公民館行事や地域行事への参加が激減する傾向にあるが、本校区では中学生の方が積極的に地域行事に参加している。課題設定能力・課題追究能力・コミュニケーション能力・自己実現能力の育成に力を注いでいる成果が現れている。例えば、校区防災訓練、河川敷の花植えボランティア、三世代交流事業等への自主参加も、中学生が積極的であり、地域に対する愛着が深まっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度までの活動を基本的に踏襲する形で計画が進んでいる。その中で、一つ一つの活動についてその意義を再確認し、育成すべき力を常に見直すことで、より自主的・主体的な活動に中学生が参画できるように様々な配慮がなされている。

活動開始当初は受動的であった中学生が、平成 29 年度は講師役や世話役に回ることも増えてきた。平成 30 年度は一つ一つの活動に対して計画の段階から中学生が参加できるようにし、持続可能な社会の担い手として地域に期待され、地域に貢献できる人材の育成に努めたい。

ESD をより一層推進することで、SDGs の達成につなげていきたい。